



『降圧薬の種類』

しもじ内科クリニック院長

下地 栄壮



高血圧に対して使用する降圧薬ですが、色々な種類がありそれぞれ特徴があります。現在主に使用されている降圧薬についてご説明します。

①アンギオテンシン変換酵素阻害薬 (ACE-I) : アンギオテンシン変換酵素 (ACE) を阻害することでアンギオテンシン I (AI) からアンギオテンシン II (AII) に変換することを抑えます。AII が AT1 受容体 (アンギオテンシン II タイプ1 受容体) に結合すると、血管収縮・血圧上昇・心筋肥大・細胞増殖・臓器障害などを引き起こします。そのため、AII の生成を抑制することで血圧低下・心筋保護・腎保護・動脈硬化進展抑制などの作用があります。副作用として空咳が有名です。

②アンギオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB) : AT1 受容体に特異的に結合し AII の作用を遮断することで ACE-I と同様の効果を認めます。

③アンギオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI) : ARB とネプリライシン阻害薬の2つの成分からなります。ネプリライシンはナトリウム利尿ペプチドを分解する酵素です。ナトリウム利尿ペプチドは、心臓から分泌されるホルモンで、強力なナトリウム利尿作用と血管拡張作用を持っています。ネプリライシンを阻害することで、血圧を下げたり過度な水分貯留を改善させることで心臓への負担を軽減させることができます。ARNI は ARB とネプリライシン阻害薬からなるため、降圧効果が強く、心不全の治療薬としても使用されています。

④カルシウム拮抗薬 : 血管の平滑筋に細胞外からカルシウムが流入するのを抑えることで、血管を拡張させ血圧を下げます。心臓の血管 (冠動脈) が痙攣するタイプの狭心症 (冠攣縮性狭心症) の治療薬にも用います。

⑤ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬 (MRA) : 副腎から分泌されるアルドステロンというホルモンが腎臓にあるミネラルコルチコイド受容体に結合すると、腎臓から尿へのナトリウム排泄を阻害します。ナトリウムが体内に保持されると、体液量が増え血圧が上昇します。MRA はアルドステロンとミネラルコルチコイド受容体の結合をブロックし、ナトリウムの排泄を促進し血圧を下げます。心不全の治療薬としても使用され、心臓や腎臓などの臓器保護効果も期待されます。

⑥β遮断薬 : 交感神経を作動させるβ受容体を遮断し、心拍数を減らして心臓の拍出量を抑えることで血圧を下げます。高血圧の治療薬としてより、不整脈や心不全の治療薬として使用されています。

⑦α遮断薬 : 交感神経を作動させるα受容体を遮断し、血管を拡張させて血圧を下げます。

⑧利尿剤 : 体内の余分なナトリウムと水分を排出し、血液の量を減らして血圧を下げます。

日常的に使用している降圧薬でもこれだけの種類があります。効果・副作用・価格などそれぞれメリット・デメリットがあり、個々の患者さんに合うように考えて選択しています。

お知らせ



お盆休みを8月11日(日)~15日(木)までとさせていただきます。大変ご迷惑をお掛けいたしますがご了承ください。



しもじ内科クリニック(nico nico studio)

東区三苦3丁目2-49(福岡銀行美和台支店隣り)

TEL:092-605-6300